

イエスのことば 第28回

「どうして怖がるのですか。まだ信仰がないのですか。」(マルコ 4:40)

□イエスの公生涯の起承転結

起：受洗から、メシア宣言（紀元 27 年の春、過越の祭り）を経て、宣教開始まで

承：メシアとしての権威を現わす。しかし結果的に、指導者層の拒否を受ける

転：弟子訓練

結：エルサレム入城から十字架（紀元 30 年の春、過越の祭り）、復活、昇天

□文脈の確認

1. 「承」の部において、12 の権威を見た。
2. 続いて、ローマ軍団の将校がイエスの権威を認めた。イエスは百人隊長の信仰を高く評価すると共に、将来、世界中の異邦人がアブラハム契約の祝福に与かることを予告した。この後、「承」の部の結末、メシア拒否に入った。
3. 拒否の前触れは、先駆者ヨハネから出た。獄中にあったヨハネは、イエスが本当にメシアかどうか迷って、イエスに質問を送った。しかし、イエスはヨハネを高く評価し、彼はメシアの先駆者としての使命を完全に果たしたと語った。そして、真の問題は、ヨハネとイエスを受け入れようとしない指導者層にあると教えた。
4. イエスは、多くのしるしを見せてきたガリラヤ地方の町々に対して、その不信仰を責めた。そして、拒否を目前にしていた時期における出来事が 2 つあった。
 - (1) 指導者層のひとりが、イエスを批判する口実を見つけようとして、イエスを食事に招いた。このとき、ある一人の「罪人」と呼ばれる女性が、イエスに対する信仰を行動で示した。
 - (2) 第 3 次宣教旅行。イエスは拒否を目前にしてもなお、神の国の福音を宣べ伝え続けた。このとき、多くの女性たちが自分の財産をもって一行に仕えた。
5. そして、ついに指導者層が公式に、イエスをメシアではないと拒否した。理由は「イエスは汚れた霊につかわれている」であった。イエスは、その理由を 4 つの点で論破し、この拒否を「聖霊を冒瀆する罪」と呼んだ。この民族的な罪は、2 つの結果をもたらすことになった。
 - (1) この世代のイスラエルに提供されようとしていた神の国は、将来の世代に
 - (2) この邪悪な世代に対しての裁き（紀元 70 年、エルサレム陥落・神殿崩壊）
6. 指導者層による公式拒否を受けて、イエスの宣教活動に大きな変化が起きた。そのような変化には、二つある。一つは、しるしに関して、もう一つは、教え方に関して。

7. しるしに関して

- (1) 拒否を受けてその場で、イエスは、しるしに関する新しい方針を、指導者層に示した。今後、イエスがメシアであることを示すしるしとしてイスラエル民族に与えられるのは、「ヨナのしるし」のみ、すなわち復活のしるしのみである。
- (2) イエスは、その後も奇跡を行ったが、それは、弟子たちに対してメシアとしての権威を示すためである。イスラエル民族に対してのしるしは、ヨナのしるししか与えられない。それまでの奇跡は、ご自身がメシアであることを示すしるしとして公然と人々の面前で行われた。そのとき、癒しなどを受ける人の側にイエスをメシアとして信じる信仰があるかどうかは、問われなかった。しかし、指導者層による公式の拒否以降は、イエスはもはや公然と奇蹟を行わない。人々の目につかない場所に移動して行き、かつ、受ける人の側に信仰があることが条件となる。

8. 教え方に関して

- (1) イエスは、拒否を受けたその日、たとえで群衆に語り始められた。その日のうちに、イエスは5つのたとえ話を群衆に、さらに4つのたとえ話を弟子たちに、合わせて9つのたとえ話を語った。そのテーマは、「奥義としての神の国」についてであった。イエスが、たとえ話をういた目的は二つあった。
 - ① **あなたがたには天の御国の奥義を知ることが許されています**・・・目的の第一、弟子たちには効果的に理解させること。イエスは、群衆にたとえで語った後に、弟子たちには意味を解説した。たとえ話に解説が加わることで、「奥義としての神の国」について、あたかもイラスト付きで理解させるような効果がもたらされた。
 - ② **あの人たちには許されていません**・・・目的の第二、群衆には、たとえ話を語ったところで止めて、「奥義としての神の国」の情報を隠す。
- (2) メッセージの内容も変わった。それまでは、イスラエルの各地を巡り、町々で、ご自身がメシアであると宣言し、だから神の国は近づいたと説いた。しかし、指導者層による公式の拒否以降は、イエスをメシアであると宣伝することは禁止される（たとえば、マタイ 16:20）。この沈黙の方針が撤回されるのは、マタイ 28章 18~20節の大宣教命令においてである。

9. 前回は、公式拒否を受けた日、イエスが群衆に教えている最中に、イエスの母と弟たちが来てイエスを連れ帰ろうとした出来事であった。このとき、イエスは、地上での血縁関係をすべて切って、信者との霊的關係のみを受け入れた。

□今回は、拒否の日の夕方から、日没後にかけて起きた出来事である。イエスが風と波を鎮めたという出来事で、自然を制する力をイエスが持っていることを弟子たちに示した。「弟子訓練」の転の部にはまだ入っていないが、弟子たちに対するレッスンは、拒否を受けた日から、すでに始まったのである。

1. マルコ 4 : 35 その日・・・指導者層が公式にイエスを拒否した日、その日である。
ルカ 8 : 22 ある日のことであった・・・(直訳)「それは起きた、あの日々の中の一日において」 あの日々とは、指導者層が公式にイエスを拒否した日とそれに続く数日である。
2. 押し寄せる群衆から離れる
 - (1) マルコ 4 : 35~36 夕方になって、イエスは弟子たちに「向こう岸へ渡ろう」と言われた。そこで弟子たちは群衆を後に残して、イエスを舟に乗せたまま、お連れした。ほかの舟も一緒に行った。
 - (2) マタイ 8 : 18 イエスは群衆が自分の周りを見ているのを見て、弟子たちに向こう岸に渡るように命じられた。
3. ルカ 8 : 23 舟で渡っている間に、イエスは眠り始められた。
4. 突風が湖に吹きおろし、荒波が立ち、舟は水をかぶって沈没の危険が迫る
 - (1) ルカ 8 : 23 ところが突風が湖に吹き降ろして来た
 - (2) マタイ 8 : 24 湖は大荒れとなり、舟は大波をかぶった
 - (3) マルコ 4 : 37 波が舟の中にまで入り、舟は水でいっぱいになった
 - (4) ルカ 8 : 23 彼らは水をかぶって危険になった
5. その中でもイエスは眠っておられた。
 - (1) マタイ 8 : 24 ところがイエスは眠っておられた。
 - (2) マルコ 4 : 38 ところがイエスは、船尾で枕をして眠っておられた。
6. 弟子たちの叫び (マタイ 8 : 25、ルカ 8 : 24、マルコ 4 : 38)
7. レッスン 1 : どんな状況下であってもメシアに信頼すること
 - (1) 弟子たちの不信仰を叱る (マタイ 8 : 26)
 - (2) イエスの対応 (マルコ 4 : 39a)、その結果 (マルコ 4 : 39b、ルカ 8 : 24)
 - (3) 教え (マルコ 4 : 40~41a) 「どうして怖がるのですか。まだ信仰がないのですか。」彼らは非常に恐れていた。
 - (4) 弟子たちの反応 (マルコ 4 : 41b、互いに言った。「風や湖までが言うことを聞くとは、いったいこの方はどなたなのだろうか」、マタイ 8 : 27、ルカ 8 : 25)